

## マーケットの動き（2026年3月2日～3月6日）

先週の国内債券市場は、前週末比で金利は上昇しました（債券価格は下落）。週初は、米国とイスラエルがイランに対する軍事行動に踏み切ったことから、投資家のリスク回避姿勢が強まり、相対的に安全資産とされる債券が買われました。その後、原油価格が高騰したことを受け、エネルギー価格上昇によるインフレ懸念が強まったことから、債券は売りが優勢となりました。クレジット市場は、やや軟調基調となりました。

## 投資環境見通し（2026年3月）

## 国内長期金利のさらなる低下余地は限定的

政府は6月までに任期満了となる日銀審議委員の後任として、利上げに慎重とされる学者2名を充てる人事案を国会に提出しました。衆議院議員選挙の結果を受けて財政政策に対する過度な懸念は一旦後退したとみられますが、日銀総裁が利上げを続ける姿勢を示す中、利上げがインフレに対して後手に回るとの懸念もみられることから、国内長期金利のさらなる低下余地は限定的で、引き続き上昇圧力がかかりやすいとみえています。

	3月6日	変動幅（騰落率）			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
10年国債利回り（日本、%） （変動幅）	2.15	0.03	▲0.07	0.58	0.64
NOMURA-BPI総合 （騰落率）	335.38	▲0.36%	0.90%	▲2.51%	▲3.84%

※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日（休日の場合は前営業日）までとします。

※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

[https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload\\_pdf/202603\\_outlook.pdf](https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202603_outlook.pdf)

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客様の投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客様自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

## 日本国債利回りの推移



## NOMURA-BPI総合指数の推移



※2025年2月28日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成